

佛心

二〇一七年四月号

浄土真宗 本願寺派

トロント本願寺



Our Children,

Our Future

一、聖教をすきこ
しらへもちたる人
の子孫には、仏法

者いであるものなり。ひとたび仏法をた
しなみ候ふ人は、おほやうなれどもおど
ろきやすきなり。 (「蓮如上人御一代記
聞書 末」 註釈版一二七一頁より)

すすんで聖教を求め、持っている人の
子孫には、仏法に深く帰依する人が出て
くるものである。一度でも仏法に縁が
あった人は、たとえふだんは大まかで
あっても、何かの折にはっと気がつきや
すく、また仏法に心を寄せるようになる
ものである。 (「蓮如上人御一代記聞書
(現代語版)」 本願寺出版社より)

毎週日曜日に勤め
られる法要で、私は
仏の教えに帰依する
ことやサンガという
御同朋御同行がいか

に大切であるかということを度々伝
えています。特に、私たちのその和
が お寺の未来のためにどれだけ大切
なものなのかを常に考えています。
そのため、寺院会議でもお寺をどの
ように盛り上げていくのかがよく議
題としてあげられており、お寺の中
でも何度もの試行錯誤が行われてい
ます。

私たちの仏教会は様々な年齢層に
よってつくられています。そのなか
でも一世や二世、三世、開教使の先
生たちを中心にお寺のことを考えて
います。ただ、私達の子どもたちも
お寺にとって大変重要な年齢層の一
つです。彼らは私達にとってお寺の
未来の扉を開けてくれる重要な手が
かりとなり、大切な存在となり得る
可能性があります。

正直に言いますと、子どもたちは
時にわがままで我慢をすること
自体が彼らにとって大変難しいこ
とであったりします。そして、私
たちはそんな子どもたちを時に煩
わしく思う対象として見ていると
きがあるかもしれません…。た
だ、私たちはそんな自分自身を見
つめ直さなければなりません。なぜ
なら、子どもたちは今まさに責任
感や上品さ、優しさ、思いやりと
いうものがどういったものなのか
を学んでいる段階であるからで
す。そして、その子たちのお手本
となるのは、決して親だけの仕事
ではなく私たちお寺のメンバー
(御門徒) の役目でもあります。

私はお寺の御門徒さんが、彼ら
の子ども達が成長して大人になっ
ても浄土真宗に関心を持ち続ける
か心配する声をよく耳にします。
私たちの美しいお寺が将来どのよ
うになってゆくのか。特にその子

どもたちがここお寺に来てやんちやをしているとき、それらのことが大変心配になるようです。

確かにお寺に来る子どもたちはとても活発的でやんちやもします。しかし、だからこそこのお寺がそれだけ彼らにとって心地の良い場所であるということですよ。そして、彼らには家族も友だちも一緒に過ごせる場所であり、キツズサンガ（子ども会）のときには法要に参加し私たちと共に合掌して「南無阿弥陀仏」と称えてくれます。

あなた自身の経験を考えてみて下さい。最近、私は辻開教使が書かれた日誌を見つけました。辻先生はトロント仏教会における最初の開教使であり、その日誌は一九五一年四月二二日から書かれていました。彼はその日誌の中で『今年の法要は、とても上手くいくものだった。ただ、残念なことに子ども達が大変騒がしく落ち着

きがなかった…。あの子らを別けるべきなのかもしれない。』と書いていました。私はこの記述を読んで思わず笑ってしまいました。決してその子らの不作法に笑ったのではありません。ただ、それが記されていたのが一九五一年の欄であり、その年代にいた不作法な子どもたちは今やこのお寺を引っ張る御門徒さん達だったからです。実は、私は多くの御門徒さんを見ると、今のお寺を引っ張っている彼らもかつては親から連れられて（もしくは今もなお）お寺の活動をしていたことが分かります。

私たちも嘗ては子どもでした。そして一世代前の方々は、私たちのことを心配していませんでした。しかし、お寺はまだここにありません。私たちの仏教信仰はまだここにありません。蓮如聖人が雄弁にお書きになられたように、心配はいりません。私たちがその種を蒔いています。だからこ

そ、彼らに時間を与え学ばせることでお寺に来るようになるでしょう。

子どもは大人のように振る舞えませんが。しかしながら、その子ども達には私たちの大人の姿を見て学び、それらに影響されて大人になっていきます。どうかそのキツズサンガ（子ども会）をあたたく見守り、私たちは彼らが浄土真宗の仏教徒として成長する手助けをしてあげましょう。私たちは視野を拡張、子どもたちの視線と気持ちを想像してみましよう。そして私たちは、その子どもたちがお寺に來たいと思えることを全てやっつけていきましょう。もしあなたが子ども視線での世界を見たならば、お寺はあなたの人生の中で重要なものの一つですか？

クリステイナ・ヤンコ開教使



The Middle Way of Body, Mind & Spirit

賢い友人がこんなこ

とを言いました。「体を大事にしなさい。あなたが生きている唯一の場所なのだから。」後に仏陀と成るシツダールタは死に直面してしまふほどの何年もの苦行の後にこの真理を見出しました。今日、健康的な食べ物をほどほどに食べ、日々の運動も欠かさず、しっかりと寝ることによって我々は中道を実践することが出来ます。

私はリチャード・カーソン博士の名著「些細なことにむきになるな、それは全部些細なことなのだから」という本を読んでいます。そのなかの一節に「人生から不要なことを取り除く簡単な方法」というものが書かれています。そこにはこんなことが書かれています。「たとえば5分だけでも瞑想やヨ

ガをするかどうか、自然の中に身を置くかどうか、邪魔が入らないようにして10分間湯船に浸かるかどうかは人生にとって決定的な違いを生む。」一人になる時間をもつことと同様に、日常生活の迷いや邪念を上手く緩和してくれます。私にとってはお仏壇の前で太極拳をしてから法要に臨むことが人生の秘訣となっています。

「自身の不完全性をそのまま出すこと」は、毎週日曜の法要で繰り返し言っている台詞です。浄土真宗の素晴らしい所は自身の不完全性をさらけ出してしまったとしても、無条件に阿弥陀仏の分け隔てない慈悲によって受け入れられることに有ります。

私たちは、これらの不完全さにもかわらぬ、愛情のこもった優しさをまずは自身のために発展させていこうとし、そしてその愛情のある優

しさを他者へと拡げていこうとします。より親切でより紳士的になつていく人の変化の様から、阿弥陀仏の慈悲の働きを見てとることが出来ます。

お寺に來られる年配の方々（私は人間文化財だと呼んでいます）を見るとそのような過程が実際どのように起こっているのかが分かります。

南無阿弥陀仏、

南無阿弥陀仏、

南無阿弥陀仏

デニス・マドコロ

日本語法座のご案内(毎週月曜10時より)

『浄土真宗って？仏教って？そもそも宗教ってなんだろう？』
 そういった疑問を駆け出しの坊主と一緒に考えながら、噛み砕いた言葉
 でお話しをしています。親鸞聖人がお書きになった正信偈と一緒に称
 え、浄土真宗のみ教えに耳を傾けてみませんか？
毎週月曜日10時より勤行の後、日本語の法話をしています。



4月の日程表：

3日 正信偈(行譜)和讃 「無明の大夜をあはれみて、」
むみょう たいや わ

10日 正信偈(草譜)和讃 「如来すなはち涅槃なり、」
にょらい わ ねはん

17日 正信偈(草譜)和讃 「南無阿弥陀仏をとふれば、」
なもあみだぶつ のお

※24日～7月7日までアメリカ研修のためお休みさせていただきます。
 お盆法要明けの7月10日から法座を始めます。

お問い合わせは、大内祐真(僧侶)まで rev.ouchi@tbc.on.ca



毎月第1・3日曜はお寺でHAVE A FUN!!

10時半からのキッズサービスに引き続き

楽しいクラスやアクティビティを通して

アミダさまのお心を学びましょう

☆クラス予定表☆

4月2日(日)10:30～

4月16日(日)10:30～

5月7日(日)10:30～

お子さんがいらっしゃる方はぜひご参加下さい。

Kids Who Cook!

4月2日は子ども法要の
 後に、お寺の台所にて
 料理ワークショップを



します！簡単な昼食を作り、子ども会の
 保護者さんにその昼食を振舞います。

※お知らせ※

5月の3日と4日は、子どもを対象とした一泊二日でお寺にお泊りをする事が出来るSleep Over を開きます。



かつてキッズサンガに来ていた子たちが今は青年となり、子ども達の面倒をみます。

料理やお参り、ミニゲームなど充実した一日をお寺で過ごしませんか？